

# 2019年度 事業報告書

2019年4月1日～2020年3月31日

公益財団法人 理想教育財団

# 2019年度実施事業の内容

## 事業区分一覧

事業	内 容	
A-1	<b>学校情報伝達システムの調査・研究</b> 通信づくり講習会等、教師または大学の教職課程の学生を対象とした講習会の実施 学校における通信活動の教育効果についての調査・研究	調査・研究事業
A-2	<b>教師による自作教材の調査・研究</b> 学習プリントをカラー化することによる教育効果・視覚的效果などの調査・研究	
A-3	<b>児童・生徒による創作表現活動の調査・研究</b> はがき新聞の教育効果に関する調査・研究 学級力向上プロジェクトとの連携での調査・研究 (H29よりA-1から移動) 理想教育財団教育フォーラムの開催 壁新聞づくりの調査・研究	
B-1	<b>教育関連出版物の刊行</b> 通信づくりに役立つ冊子等の刊行	情報提供事業
B-2	<b>研究情報誌の発行</b> 「季刊理想」の発行	
B-3	<b>ホームページの運用</b> 事業の告知や活動報告、情報開示のほか、プリントコミュニケーション活動に役立つ情報を提供する。	
C-1	<b>後援・支援の事業</b> 臨書と自由書作品展の共催 文化芸術教育の充実に関する事業への助成、その他プリントコミュニケーション活動の発展に関わる事業への助成	助成・顕彰事業
C-2	<b>新聞教育の普及・振興</b> 全国小・中学校・PTA新聞コンクールの後援 全国新聞教育研究大会の後援 地域の新聞教育に対する支援	
C-3	<b>日本人学校等への支援・助成</b> 海外日本人学校に対する児童図書寄贈 その他海外への教育支援	
C-4	<b>コンクールの開催・顕彰</b> プリントコミュニケーションひろばの開催	

### 【A】調査・研究事業

## A-1 学校情報伝達システムの調査・研究

### ①学校における通信活動の教育効果に関する調査研究結果を踏まえた活動(2018年9月、最終報告)

○調査結果に基づく対策検討(通信を出したくても出せないことへの対策)

- ・プリントコミュニケーションひろばの活性化による事例の収集伝播。および そのための告知方法の改善、応募ルールの見直しを検討した。
- ・通信発行の手間を省きより簡便に作成する方法の提供を検討した。

### ②所沢市学校食育研究会総会における食育指導講演会(講師派遣)

日時	6月12日(水)15:00~16:30
場所・参加者	所沢市生涯学習推進センター 学習室301 参加者62名
内容	・講演テーマ:食育・給食だよりの魅せ方。伝え方実例から学ぶ。待たれる、読まれる、役立つ通信づくりのヒント。講師:新聞教育支援センター代表 吉成勝好先生

### ③愛知教育大学公開講座支援(講師派遣)

日時	6月29日(土) 9:00~12:00
場所・参加者	愛知教育大学 参加者8名
内容	・愛知教育大学の講座への講師派遣。講師:吉成勝好先生による「はがき新聞による語彙力と表現力」の講座提供。

### ④愛知教育大学公開講座支援(講師補助)

日時	7月6日(土) 9:00~12:00
場所・参加者	愛知教育大学 参加者7名
内容	・愛知教育大学准教授 磯部征尊先生の講演「問題解決的な学習の作り方と板書指導のコツ」の補助としてはがき新聞関連の紹介を実施。

### ⑤東洋大学文学部教育学科 教職実践演習支援(講師派遣)

日時	11月25日(月)13:30-15:00
場所・参加者	東洋大学 白山キャンパス601教室 参加者33名
内容	・講師:吉成勝好先生。教職を目指す学生に、はがき新聞と学級通信の制作を実際に行う講義で、例年実施されている。

### ⑥聖徳大学 児童学部児童学科 教育実講座 通信の作成講座(講師派遣)

日時	11月28日(木)15:00~17:00
場所・参加者	聖徳大学 受講生38名
内容	・講師:吉成勝好先生、学級通信の制作を実際に行う講義。

### ⑦東洋大学文学部教育学科 教職実践演習支援(講師派遣)

日時	12月2日(月)13:30-15:00
場所・参加者	東洋大学 白山キャンパス601教室 参加者37名
内容	・講師:吉成勝好先生。教職を目指す学生に、はがき新聞と学級通信の制作を実際に行う第2回目の講義。作成した作品を製本して卒業生に配布予定。

### ⑧沖縄女子短期大学児童教育学科はがき新聞講座(講師派遣・助成品支援)

日時	12月3日(火)10:40~12:10
場所・参加者	沖縄女子短期大学4階404教室 児童教育学科初等教育コース2年生43名
内容	・講師:宮城英誉先生(名護市立小中一貫教育校緑風学園 教諭) ・講座名:「はがき新聞づくりワークショップ」沖縄女子短期大学山内理事長からの要請で実施。

### ⑨新潟薬科大学理科教職課程「教職実践演習」(講師派遣)

日時	12月20日(金)13:10~16:40
場所・参加者	応用生命科学部B棟203教室 4年生18名
内容	・講師:吉成勝好先生、「第1号の理科通信を書く」をテーマとしてこれから教壇に立つ学生に対し、通信を発行することの意義を解説。

### ⑩江東区中学校教育研究会学校給食部会(講師派遣・資料提供)

日時	2月5日(水)14:30~16:30
----	--------------------

場所・参加者	江東区立深川第五中学校 参加者20名
内 容	・講演テーマ:食育の推進に役立つ「おたより」を一生徒の関心・意欲を高めるために。 講師:吉成勝好先生。

## A-2教師による自作教材の調査・研究

「学習プリントをカラー化することによる教育効果や視覚効果などについての調査・研究」

・助成品として「2色プリントの活用事例」を配布した。

## A-3児童・生徒による創作表現活動の調査・研究

「はがき新聞の教育効果に関する調査・研究」

### 調査・研究対象について

\*学習指導要領の「言語活動の充実」を図るため、思考力・判断力・表現力・コミュニケーション力を高める教育手法として「はがき新聞づくり」を推奨。「はがき新聞づくり」は単なる行事、体験の報告に留まらず、多くの教科での活用が可能である。調査研究「コンパクトテキストによる文書表現力育成研究」の対象として、物語文以外に短歌俳句や特別の教科道徳を含むこととした。また新規に開始した「私の見つけた言葉ノート」の普及版「言葉のポケット」を作成し、現場での実証を行った。

### 1)主な活動状況

①実践援助としての助成状況:特別助成校(プリンタ付)、一般助成校(プリンタ無し) 2020年3月末現在			
	特別助成校	一般助成校	合計
小学校	377	1195	1,572
中学校	188	724	912
高校・養護等※	14	60	74
計	579	1,979	2,558
2019.3末	575	1,650	2,225
増減	4	329	333

\*全国の小中学校(除高校大学)の普及率  
2558校/ 29919校 8.55%

### ②はがき新聞推進活動

(1)2018年度の実践報告書から授業実践事例集(抜粋版)を制作。	
(2)朝日新聞のWebサイトteachers'メールにはがき新聞事例を掲載	
(3)2019年度授業実践について報告を依頼	
ねらい	・今年度は物語文の読解を目的とした実践、俳句・短歌の説明文を書く実践、道徳の授業並びに防災教育に関する実践を募集。事例の一部を実践事例集(財団助成物)として公開し、はがき新聞の普及の糧とした。
対象 (実践同意校)	小学校 : 物語文×12、道徳×3、俳句・短歌×3、防災×1、他 計24校 中学校 : 物語文×4、道徳×1、俳句・短歌×2 他 計14校
締め切り	2020年2月までに実践報告をいただく(募集 2019年5月)
(4)言葉のポケットの作成と実証のための配布	
ねらい	・新学習指導要領が重視する「語彙力の向上」を目的に、早稲田大学文学学術院教授 森山卓郎先生のご指導で作成・配布し、はがき新聞に加え語彙力向上の支援とした。
補足	「言葉のポケット」 ※分からない言葉、興味をもった言葉などを書きとめ、語意を調べ、文例を考えることにより新しい言葉を身に付けさせるノート。

### 2)はがき新聞の教育効果についての研究委託

①研究テーマ「コンパクトテキストによる文章表現力育成の研究」	
内 容	コンパクトテキストによる文章表現力育成の研究(「はがき新聞」を「コンパクトテキスト産出」型の取組として位置づけ、学校教育の様々な局面においていかに応用できるかを考えるとともに、語彙教育への活用法を開発する)

実施期間	2019年4月1日～2020年3月31日
研究委託者	早稲田大学文学学術院教授 森山卓郎先生
	1982年京都教育大学卒、1985年大阪大学大学院文学研究科博士課程修了、1988年同大学講師、1990年京都教育大学助教授、2004年同教授、2008年より附属幼稚園長を兼任、2012年より早稲田大学文学学術院教授、京都教育大学名誉教授。

<b>②研究テーマ「学級力を高める探究的な学習を取り入れた授業方法の開発研究 ～はがき新聞を表現ツールとして活用して～」</b>	
内 容	子どもたちが主体的・協働的に学級づくりを行う力を育て、はがき新聞を表現ツールとして活用して新しい授業方法を研究開発してゆく。
実施期間	2019年4月1日～2020年3月31日
研究委託者	早稲田大学教職大学院教授 田中博之先生
	大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程在学中に助手となり、大阪教育大学助教授・教授を経て、2009年4月より現職。文部科学省「全国的な学力調査に関する専門家会議」委員(2007年～2018年)。専門は、授業デザイン・学習指導論。

### 3)教育フォーラムの開催

<b>①第11回教育フォーラム開催</b>	
日 時	8月18日(日)13:00～17:30
場所・参加者	大阪府立国際会議場(グランキューブ大阪) 12F 特別会議場 参加 238名
内 容	(1)特別講演 講師:國學院大學人間開発学部教授 田村 学先生 演題:『新学習指導要領の方向性ー主体的・対話的で深い学びの実現に向けてー』 (2)基調提案 講師:早稲田大学文学学術院教授 森山卓郎先生 演題:言葉から具体的に考える「楽しくて深い学び」 (3)シンポジウム テーマ:『楽しく思考力・判断力・表現力を高めるためにーはがき新聞等の活用を通してー』 コーディネーター:早稲田大学文学学術院教授 森山卓郎先生 シンポジスト: 佐賀大学 教育学部教授 達富洋二先生 山形県酒田市立琢成小学校教諭 齋藤真結美先生 高知県三原村立三原中学校教頭 中野こずえ先生

<b>②第2回教育シンポジウムin高知</b>	
日 時	9月7日(土) 13:00～16:00
場所・参加者	高知市ちより街テラス 会議室1・2 参加者19名
内 容	シンポジウムテーマを「はがき新聞を活用した新たな防災教育とはー防災はがき新聞ワークショップ」として開催。「命を守る防災はがき新聞」講師:一般社団法人日本新聞協会NIEコーディネーター関口修司氏の講演の後、三原村立三原中学校教頭中野こずえ先生による実践事例発表があり、香南市立佐古小学校教頭梶原和美先生の指導によるワークショップを行った後、参加者も交え質疑応答などで交流深め、定刻に閉会となった。県教委、高知市教委の後援や、高知新聞社に過去の災害報道の写真パネルの会場展示に協力いただき、一層の防災教育への取り組み機運が高まった。

<b>③第3回教育シンポジウムin札幌</b>	
日 時	10月20日(日)10:00～11:30はがき新聞ワークショップ 13:00～16:00教育シンポジウム
場所・参加者	TKP札幌ビジネスセンター 参加ws6名、シンポジウム19名
内 容	「はがき新聞ワークショップ」講師:三上久代先生。「主体的対話的で深い学びの実現について」講師:早稲田大学教授森山卓郎先生の特別講演後、札幌市立上白石小学校田中先生、札幌市立陵北中学校関先生の実践事例発表があり、札幌市立上白石小学校本城先生、函館市立亀田中学校川端先生、三上久代先生の各事例をリレー形式に繋げ、実践を通しての語彙力向上について森山先生が司会進行を務めたシンポジウムが行われた。参加者も交え討議を深め、定刻に閉会となった。道教育庁、札幌市教委の後援あり。

<b>④第12回教育フォーラム開催</b>	
-----------------------	--

日 時	2月9日(日)13:00～17:30
場所・参加者	東京・銀座 時事通信ホール(時事通信ビル2階) 参加209名
内 容	(1) 特別講演 講師：東京工業大学名誉教授 赤堀侃司先生 演題：『AI時代の教育のありかたー学びに向かう力を身につけるにはー』 (2) 実践報告&フリートーク テーマ：『未来を生き抜く子どもたちの資質・能力を 高める授業づくり・学級づくり』 コーディネーター：早稲田大学教職大学院教授 田中博之先生 発表者：江戸川区立南篠崎小学校主幹教諭 堀口友紀先生 南アルプス市立八田小学校研究主任 前橋麻里子先生 函館市立亀田中学校教諭 川端裕介先生 品川女子学院中等部教諭 植草穂乃花先生 アドバイザー：東京工業大学名誉教授 赤堀侃司先生

#### 4)その他講習会・研修会等

<b>①第12回関西学級力向上研究会(共催)</b>	
日 時	5月12日(日) 13:30～17:00
場所・参加者	梅田センタービル 参加19名 部会長 桃山学院教育大学准教授 今宮信吾先生
内 容	・尼崎市立武庫東小学校 宇都亨先生他2名の実践報告があった。異動後いきなりの担任。落ち着かない学級だが「学級力があるから安心感がある」との事。 ・今宮部会長から本年の活動方針が示された。田中博之先生から学級力により子どもたちが学習提案を生み出す授業づくり。学級自治から学習自治の提案があった。
<b>②中部学級力向上研究会(共催)</b>	
日 時	6月1日(土) 13:30～17:00
場所・参加者	名古屋ダイヤビル 参加者49名 部会長 愛知教育大学准教授 磯部征尊先生
内 容	・一宮市立神山小学校 水野晋吾先生ほか2名の実践発表があった。 ・秋田県立大学 准教授 伊藤大輔先生による「マークシートで学級力アンケートの集計をより上手に」のワークショップがあった。また早稲田大学 遠藤真司先生の特別講演があった。
<b>③第13回関西学級力向上研究会(共催)</b>	
日 時	7月21日(日) 13:00～17:00
場所・参加者	梅田センタービル会議室 参加19名 部会長 桃山学院教育大学准教授 今宮信吾先生
内 容	・発表者5名。尼崎市立武庫東小学校 宇都亨先生他、中部部会からのゲスト発表者もあり活気のある研究会だった。
<b>④はがき新聞研究会(関東部会)(主催)</b>	
日 時	8月31日(土) 13:00～17:30
場所・参加者	理想教育財団会議室 参加23名
内 容	・千葉県教育事務所桃井淳子指導主事他3件の事例発表あり。後半、はがき新聞の今後に必要なものとは何か、研究会は今後どうあるべきかについてディスカッションし、発表し合った。
<b>⑤はがき新聞研究会(関西部会)(主催)</b>	
日 時	9月1日(日)13:00～17:30
場所・参加者	梅田センタービル 16階J+K会議室 参加23名
内 容	・京都聖母学院小学校清水生恵先生他、はがき新聞実践事例3件の発表あり。後半、はがき新聞の今後に必要なものとは何か、研究会は今後どうあるべきかについてディスカッションし、発表し合った。
<b>⑥第6回はがき新聞ワークショップ in 神戸(主催)</b>	
日 時	10月6日(日)13:00～16:00
場所・参加者	兵庫県私学会館 101号会議室 参加者:17名
内 容	・講演:桃山学院教育大学准教授 今宮信吾先生による「言葉による見方・考え方を育むはがき新聞」。清水生恵先生(京都聖母学院小学校)、宇都亨先生(尼崎市立武庫東小学校)による実践事例報告の後、今宮先生が講師となって「学校紹介のはがき新聞をつくらう」をテーマにワークショップを行う。
<b>⑦第14回 関西学級力向上研究会(共催)</b>	
日 時	10月13日(日)13:30～17:00

場所・参加者	梅田センタービル 16階 C+D 参加者10名 部会長 桃山学院教育大学准教授 今宮信吾先生
内 容	・事例発表者 堺市立金岡南中学校奥田雅史先生「学級力で中1ギャップに立ち向かう」他3件の実践発表があった。

<b>⑧中部学級力向上研究会(共催)</b>	
日 時	10月19日(土) 13:00~16:30
場所・参加者	名古屋市教育館 参加64名(新規20名)部会長 愛知教育大学准教授 磯部征尊先生
内 容	・高知県吉野小学校北岡校長(30分)の講演と実践発表6件と立て続けに発表された。後半では発表者を囲んで7グループに分かれフリーディスカッションが行われ有意義な研究会となった。

<b>⑨第15回関西学級力向上研究会(共催)</b>	
日 時	12月22日(日) 13:30~17:00
場所・参加者	梅田センタービル 参加21名 部会長 桃山学院教育大学准教授 今宮信吾先生
内 容	・発表は堺市の奥田先生他宇都先生、清水先生、蛭谷校長先生の4名。

<b>⑩関東学級力向上研究会(共催)</b>	
日 時	12月26日(木) 13:30~17:00
場所・参加者	早稲田大学 7号館207教室 参加40名 部会長 早稲田大学 客員教授 遠藤真司先生
内 容	・発表は①相模原市立新宿小学校 小澤先生 ②豊中市立東豊中小学校 蛭谷校長 ③葛飾区立青戸小学校 松本先生 ④大田区立都南小学校 江袋先生 の発表あり。参加者の半数以上は初参加だった。

<b>⑪中部学級力向上研究会(共催)</b>	
日 時	2月15日(土)12:00~16:45
場所・参加者	名古屋市教育館 参加約60名 部会長 愛知教育大学准教授 磯部征尊先生
内 容	・プログラムは新潟・小須戸小学校の羽田雄偉校長の特別講演(45分)と実践発表者7名(各20分) 田中先生は最後の総括で10分程度。

<b>⑫第1回関西学級力向上研究会研究大会(共催)</b>	
日 時	2月16日(日)13:00~17:00
場所・参加者	新大阪丸ビル 参加者35名(スタッフ含む) 部会長 桃山学院教育大学准教授 今宮信吾先生
内 容	・今回は今までの研究成果を報告し、実践者を一人でも増やすことを目的とした大会。田中先生の講演、事例発表は3件(宇都先生、清水先生、蛭谷校長先生)、総括で今宮先生。

## 【B】情報提供事業

### B-1 教育関連出版物の刊行

<b>①通信づくりのノウハウ本「学級通信119番」刊行</b>
・2016年に行った「学校における各種通信の実態と教育効果に関するアンケート調査」の回答で、自由記述欄に記載された先生方の意見を丹念に拾い上げた。吉成勝好先生編著。
<b>②「みんなが作ったはがき新聞百科」制作(はがき新聞助成開始10周年企画)</b>
・2018年10月~12月に募集した「はがき新聞ひろば」(コンクール)応募作品の中から小学校から中学校までの全学年を網羅した作品を集めはがき新聞百科として作成し、助成品とした。
<b>③「学級力向上プロジェクトを高めるはがき新聞の活用Ⅱ」制作</b>
・2014年に刊行した学級力向上プロジェクトシリーズの第2弾。子どもたちが主人公になって進める学級づくりの解説満載。編著は愛知教育大学の磯部征尊准教授。

### B-2 研究情報誌の発行

<b>①機関誌『季刊理想』の発行</b>
・読者拡大のため多彩な記事を掲載するよう新規助成品の紹介や絵を観るヒントの連載、また巻頭エッセイの寄稿者選考への配慮など紙面の充実を図った。

### B-3 ホームページの運用

<b>①常に新鮮な情報をアップ</b>
・各種助成品の紹介や、申し込み窓口としての機能充実を図った。また財団主催のフォーラム等各種イベントの

お知らせと参加申し込みサイトとして機能した。

## 【C】助成・顕彰事業

### C-1 後援・支援事業

<b>①小中学生記者の文化財取材コンクール 主催 京都古文化保存協会（後援）</b>	
日 時	7月27日(土)13:00～16:00
場所・参加者	京都男女共同参画センターにて開催。京都府内在住ないし通学する小中学生約50名参加。
内 容	・子供たちに伝統工芸を体験させたのちに小学生は、はがき新聞を作成&印刷し提出。中学生は取材後、9月7日までに記事の部・写真の部いずれかに応募。賞は京都市長賞、京都府教育長賞、京都新聞賞、理想教育財団賞他。
<b>②京都府6年目教員指導力向上講座(資料支援)</b>	
日 時	8月5日(月) 13:00～14:30
場所・参加者	京都府教育センター 参加者約50名
内 容	・講演テーマ「学習指導と関連付けた生徒指導のあり方」講師:愛知教育大学准教授 磯部征尊先生。はがき新聞を活用した学級経営の手法を紹介。(学級力向上プロジェクト)
<b>③京都市小学校教育研究会「第2回青年教員並びに幹事研修会」(講師派遣)</b>	
日 時	10月25日(金) 18:30～20:30
場所・参加者	京都市総合教育センター松永記念ホール 参加者約120名
内 容	・早稲田大学教職大学院教授 田中博之先生演題「主体的・対話的で深い学びと学習評価について」。好評にてリピートの要請あり。
<b>④第13回広島文化の祭典(印刷支援)</b>	
日 時	10月26日(土)～1月8日(水)
場所	市内アステールプラザ、広島文化交流会館、西区民文化センター他
内 容	・広島市教委主催:小学校、中学校、高等学校における文化芸術活動の発展・充実と児童生徒の健全育成を目的に開催されるイベント。広報チラシの印刷支援をした。
<b>⑤第26回臨書と自由書作品展(主催 児童の書を考える会)(共催)</b>	
日 時	11月5日(火)～10日(日)
場所	東京芸術劇場5階 展示ギャラリー
内 容	・受賞者が来場の都度、会場にて表彰式を行った。作品点数 121点、来場者数1,962名。
<b>⑥全国小学校国語教育研究大会(資料支援)</b>	
日 時	11月21日(木)～22日(金)
場所・参加者	21日京都市総合教育センター松永記念ホール 参加者約350名 22日安朱小学校(公開授業)
内 容	・歴年の支援が認められ、受付資料にはがき新聞関連資料を3点同封していただいた。公開授業の安朱小学校でも、全校的にはがき新聞を実践しており、廊下に掲示されたはがき新聞の訴求効果は大。
<b>⑦第3回CHIBAこども新聞コンクール(後援)</b>	
日 時	2月19日(水)13:30～17:00(審査会) 3月6(金)～11日(水)10:00～18:00発表会
場所・参加者	審査会:千葉県教育会館 会議室 発表会:アリオ蘇我(千葉市)
内 容	・応募作品 8部門 27校 167点 県知事賞、教育長賞、千葉日報社長賞他千葉市長賞、千葉市教育長賞、理想教育財団賞がある。理想教育財団賞(はがき新聞部門)は市川市立塩焼小学校の「にじいろ」が受賞。

### C-2 新聞教育の普及・振興

<b>①横浜市中学校教育研究会 新聞教育研究部会(新聞作品集支援)</b>	
日 時	5月8日(水) 15:00～17:00
場所・参加者	日本新聞博物館セミナールーム(横浜市中区日本大通11番地)

内 容	・記念講演、新聞づくりワークショップ。第29回横浜市立中学校中学校教育新聞コンクール作品集印刷支援。
-----	--

②千葉新聞教育研究会総会参加(会長 小嶋享治先生/市川市立新井小学校校長)	
日 時	5月11日(土)15:00~19:00
場所・参加者	全日警ホール2階会議室 参加15名
内 容	・2020年全新研全国大会の準備について→会場は全日警ホール(市川市)に決定 ・第3回CHIBAこども新聞コンクールについて

③第1回新聞教育(NIE)学習会inたまやま (資料提供・運営支援)	
日 時	6月13日(木)
場所・参加者	盛岡市渋民文化会館 参加約30名
内 容	・岩手県新聞教育研究協議会主催の勉強会。 「はがき新聞を主とした新聞教育について」講師:八幡平市立柏台小学校校長 田村勝先生

④第62回全国新聞教育研究大会 十勝帯広大会(資料支援・講師派遣)	
日 時	7月30日(火)~31日(水)
場所・参加者	とからプラザ(帯広市) 参加200名
内 容	・全新研全国大会の「はがき新聞づくり講習会」に、講師として帝塚山大学准教授徳永加代先生を派遣。ほか、助成品等の支援を実施。

⑤第53回学校新聞まめ記者講習会 神奈川県私立小学校協会主催 (印刷支援)	
日 時	8月7日(水)~10日(土)
場所・参加者	茨城県 筑波山ホテル青木屋 115名(9校)
内 容	・私学の小学生(希望者)が記者となって取材先を訪問し、個人新聞、グループ新聞を合宿中に仕上げるという講習会。完成作品の印刷をサポート。

⑥福井県教育委員会主催「新聞を活用した教育研修会」分科会応援(資料支援)	
日 時	10月29日(火)13:30~16:30
場所・参加者	福井県教育総合研究所 参加16名
内 容	・勝山市立荒土小学校 道関直哉校長先生講師による「新聞紙芝居で考え、はがき新聞で表現しよう」と題した分科会が行われ、16名の先生方が参加された。「わが校自慢」の題で各先生がはがき新聞の作成を行い最後には全員の作品を掲示し交流した。

⑦第23回おきなわ NIE セミナー支援(講師派遣他)	
日 時	11月2日(土)14:00~17:00
場所・参加者	沖縄タイムス社本社9階 参加19名
内 容	・講師:桃山学院教育大学 准教授今宮信吾先生 ・主催 沖縄県NIE推進協議会 テーマ「書くことによって思考する力を育むはがき新聞づくり」

⑧令和元年度日高NIE研究会第2回学習会(講師派遣・資料提供)	
日 時	1月18日(金)13:00~15:30
場所・参加者	門別町立門別中学校 多目的室 参加者20名
内 容	・特別講演:「言葉から楽しく考える、主体的・対話的で深い学び」講師:早稲田大学教授 森山卓郎先生 ・ワークショップテーマ:はがき新聞をつくろう!講師:本別町立勇足小学校 教頭 池田圭子先生

⑨第69回全国小・中学校・PTA新聞コンクール(後援)	
日 時	2月1日(土)最終審査会 13:30~16:30 ※2月29日(土)表彰式はコロナ問題のため中止。
場所・参加者	毎日新聞社 BI階会議室
内 容	・当財団は後援法人として副賞の図書カードを提供した。小学校学級新聞の部(理想教育財団賞 北海道登別市立富岸(トケン)小学校)

<b>⑩鹿児島NIE実践報告会(資料提供)</b>	
日 時	2月22日(土)13:30~16:00
場所・参加者	南日本新聞社 会議室
内 容	・今年度の鹿児島県のNIE実践指定校13校の先生方が集まり、今回は3校の発表が行われた。 ・財団は概要紹介と助成品の紹介をする。

### C-3日本人学校等への支援・助成

<b>①海外日本人学校等への支援・助成</b>	
内 容	公益財団法人海外子女教育振興財団との連携により日本人学校、補習授業校、補習校へ図書 を寄贈。寄贈数量は各校41冊。約5万円相当×10校。
寄贈先	海外子女教育振興財団と今期の図書寄贈先について検討。新設日本人学校、補習授業校の情 報を基に、10校を決定した。パラオ日本語補習校(パラオ)、バイリンガル補習授業校(ドイツ)、 ハーグ・ロッテルダム補習授業校(オランダ)、オマハ日本語補習授業校(アメリカ)、オーフス日本 語補習校(デンマーク)、アンコール補習授業校(カンボジア)、アビジャン日本語補習校(コートジ ボワール)、アスンシオン日本人学校(パラグアイ)、アディスアベバ日本語補習授業校(エチオピ ア)、ハンツビル日本語補習校(カナダ)。

<b>②ネパール教育支援</b>	
内 容	一部を残し3カ年のネパールへの教育支援を終了した。ただし、SDGsへの対応を踏まえ、3年間 で培われたネパールとの縁を元に活動が出来れば継続を検討する。

<b>③エジプト教育支援</b>	
内 容	エジプト・日本パートナーシップ(EJEP)による日本式教育のエジプトへの導入に携わる國學院大 学の杉田洋教授からの紹介。教育システムはJICAと共に専門家が指導に当たっているが印刷事 情が非常に悪いとの事で日本式教育と共に高性能の印刷機のニーズがあると聞き、EJEPへの側 面的な支援として印刷機の寄贈を検討した。3校中2校の寄贈が前期に終了。今年度4月に残る1 台納品完了。

<b>④パキスタン教育支援</b>	
内 容	パキスタンのシンド州識字局より寄附要請に基づき、印刷機を1台を寄贈。

### C-4コンクールの開催・顕彰

<b>①第15回「プリントコミュニケーションひろば」</b>	
募集期間	2019年1月2日~3月31日
審 査	4/20一次審査会(小学校)、4/13一次審査会(中高等学校)、5/19最終審査会
応募状況	小学校209点、中学校182点、高等学校20点 その他1点 計412点 (前年比-71点/85%)
(前年実績)	小学校226点、中学校227点、高等学校29点 その他1点 計483点 (前年比-134点/78%)
受賞者	最優秀賞 兵庫県立伊川谷高等学校 学年通信42回生版 教諭 福田 浩三 部門別優秀賞 那覇市立寄宮中学校 上原美絵、北海道鹿追町立鹿追中学校 中村宏喜、 熊本市立向山小学校三島朋子 特別席×3点、部門別優良賞×5点、ひろば賞12点ほか
所 感	応募総数は前年比-71点と減少に歯止めがかからない。英語・道徳等の教科化や、校務の複雑 化などによる教師の多忙化、各地の教育委員会の告知消極化も一因と見られる。マス媒体利用 や効率的な告知とともに抜本的な対策が必要。一方iPadなどによる配信事例もあり、デジタルへ の対応も課題。

<b>②第16回「プリントコミュニケーションひろば」</b>	
募集期間	2020年1月2日~3月31日
応募状況	総数 約400点(新型コロナウイルスの為、詳細未集計)
審 査	一次審査会・最終審査会とも新型コロナウイルスの為、延期。
状 況	応募数の減少傾向止まらず。新型コロナウイルスの影響もありうるが、プリコミ自体のあり方の見直 し時期とも考えられる。

<b>③プリントコミュニケーションひろば活性化策</b>
・募集チラシの全面リニューアル、媒体告知の拡大
・応募条件の簡素化、Web応募、SNS等利用の通信の調査他
・Word、一太郎形式の通信用テンプレート(ダウンロード可)HPに掲載(村橋審査員により8種提供)
・A4判通信用原稿用紙5.5mm版作成(現在モニター中)

## その他の事項

### ①理事会・評議員会

第37回理事会 5月22日

第38回理事会 6月17日(書面による決議)

第9回定時評議員会 6月18日

第39回理事会 11月27日

第40回理事会 3月22日(書面決議)

### ②内閣府立入検査

9月19日 重大な指摘事項はなかった。

### ③富安理事提案に基づく座談会への対応

・東京大学 秋田喜代美教授、上智大学 田中治彦教授、日本女子大学 西村陽平名誉教授の3名と富安理事による座談会(2019年3月)で交わされて財団の新しい公益事業についての提言は新型コロナウイルスの感染を懸念し検討会を延期した。